

2023年10月1日 久宝教会 礼拝メッセージ

「渡れなくなる前に」

水谷憲牧師

聖書 ルカによる福音書 17章 19-31節

私の友人で、40代半ばくらいの女性がおりまして、3人の子どもたちを抱えてシングルで必死に生きてきたのですが、子どもたちもようやく自立しようかという時期になって来て、やっと自分の時間が持てるようになってきた、ということで最近文字通り飲み歩いている人がおります。彼女は若い頃、相当やんちゃしておられたようで、きっといろんな人を見てきたからでしょうか、ちょっとしたことくらいは笑い飛ばして飲み込める、おおらかな器の大きな方なんです。私が彼女にいつも感心させられるところは、彼女はどんな人とも話を合わせられる、それは単に話の内容ということではなく、相手がどんな人であろうとも、つまり相手が男であろうと女であろうと、若かろうが年をとっていようが、金持ちでも貧乏人でも、真面目人間でもちよい悪オヤジでも、障がいを持っていても、おんなじようにフラットに対話ができる、非常にコミュニケーション能力の高いところなんです。全然何か知った風に偉ぶっているわけでもなく、また悪ぶっているわけでもなく、誰に対しても気持ち良く受け答えのできる人で、私もあんな風になりたいものよといつも思わされています。

そんな彼女は、最近飲み歩いていると言いましたが、対話も上手で度胸もあって、見た目もシュツとしているので、飲みに行くたびにいろんな人と友だちになるのだそうです。このあいだ友だちと飲みに行って仲良くなった人は、手首までびっしり刺青があって、お付きの人が何人かついてましたわ、お付きの人って、一緒に笑ったりしたらだめなんですねえ、ありゃ反社ですよ、とか笑いながら話したり、ある時はとても名前は出せない某有名企業の役員と仲良くなって、数人で一緒に釣りに行ったりゴルフに連れて行ってもらったり、何やらその人は50過ぎ、私よりも少し年上らしいのですが、そんな年齢にしてもう1年の半分くらいは仕事しなくてもいいようで、海外も含めていろんな所に別荘を持っていて、須磨の自宅なんかはびっくりするほど広いし、高い車に高い酒（「高級車」ではなく「高い車」ってところが、大阪の人っぽいですけど）、もう見たことないような世界だったんだそうです。どこかマンション買ってほしいって頼んだら本当に買ってくれそうな勢いですわ、もう住んでる世界が違いますね、金銭感覚がおかしいですわ、ってちょっと引き気味

に話しておられました。

まあ世の中とんでもない金持ちがいるということは知ってはいましたし、もちろんその人もこれまで死ぬほどがんばってきたからこそ、それだけの生活ができるようになったのだろうけれども、私と同世代という設定で改めて聞くと、こちらは毎日、やれ首が痛い腰が痛い、今日は手首が痛いとか、体の節々の痛みに悩みながら、満員電車で通勤し、Gパンに穴が開くたびに100均の補修シートで穴をふさぎ、安いハイボールで晩酌するのが楽しみ、みたいな世界なので、本当に住んでいる世界が違う。ちょっと前には私の高校の後輩が、FaceBookで「ベンツ買いました!」とか「バイクを衝動買いしちゃいました!」みたいなことを報告してて、同じ世代の同じ人間なのに、同じ高校出たのに、どこでそうなったんや、もちろん自分に心当たりはめっちゃめっちゃあるし、幸せの条件なんてそんなことだけじゃないと分かってはいるんですけど、ちょっと指をくわえてしまう自分、ちょっとへこむ自分もいるわけです。僕らのように保育や介護、障がい者支援など福祉の世界に生きる者は、人間の命を支え、本人だけでなく家族の生活をも直接支える本当に重要な働きをしているにもかかわらず、何でこれほどに待遇が悪いのか。何でホリエモンのような人間に「保育や介護なんて誰でもできる」なんて軽く言われたいけないのか。僕らの仕事がなかったら、みなさんおちおち仕事なんか行けませんよ。福祉の仕事は特に従事者の人間性が問われるので、資格さえ取れたら誰でもできるなんて大間違いですよ。本当にあの増税メガネ君やホリエモンのような、下々の苦しみを知らない金持ちに知ってほしい。

…と、ぶつぶつ文句ばかり並べてしまいましたが、本日ともにお読みした聖書では、毎日贅沢に遊び暮らす「ある金持ち」と、彼の家の門前で横たわるできものだらけの「ラザロ」という人物が出てきます。ラザロは、金持ちの家の宴会でテーブルから落ちた食べ物、いわゆる残飯ですら、それを腹いっぱい食べられたらと夢見るほどの境遇でした。それほどの惨めな姿に、犬もやって来てでき物をなめたといひます。ラザロは金持ちの家の門前に横たわっていました。この哀れな私を見て下さい!と明らかに苦しさをアピールしていたわけです。しかし、金持ちがそんなラザロに何か施しなりアクションを起こした形跡はありません。ラザロは金持ちに無視されたのです。野良犬の方がまだラザロに対して優しくったではないか。

時が流れ、そのような 2 人は、死んでから境遇が全く逆になります。金持ちは陰府、つまり地獄で苦しめられる一方、ラザロはアブラハムと共に天国の宴席でもてなしを受けているわけです。金持ちは『アブラハムよ、私を憐れんで下さい。ラザロをよこして、指先を水に浸し、私の舌を冷やさせて下さい。私はこの炎の中でもだえ苦しんでいます』と大声で訴えます。あらゆる贅沢を尽くし、手に入れられない物などなかったかのような彼が、「水を飲ませて下さい」どころか「ラザロの指先で私の舌を冷やさせてください」とは、何とも謙虚なものですが、アブラハムは『子よ、思い出すがよい。お前は生きていた間に良いものを受け、ラザロの方は悪いものを受けた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもだえ苦しむのだ。そればかりか、私たちとお前たちの間には大きな淵が設けられ、ここからお前たちの方へ渡ろうとしてもできないし、そこから私たちの方に越えて来ることもできない』と冷たく突き放すわけです。生きていた頃、金持ちはラザロを毎日毎日見かけていたに違いなかったにもかかわらず、彼はラザロに対して無関心で、彼のことを無視していました。彼は自分の富、あふれるほどの富を、他人のため、特に貧しく苦しんでいる人たちのために用いようとは決してしなかったのです。もちろん、自分の財産ですから、自分の好きなように使ってかまわないのですが、彼が地獄で灼熱の苦しみから救われないのは、自分の富を自分のためにしか使わなかった報い、他者に対して憐れみを示さなかった報いだったのかもしれない。

そして、金持ちは苦しみを強いられてはじめて、自分がいかに他者に対して無関心であったかに気付かされたのでしょう。それで彼は、「父よ、ではお願いします。私の父親の家にラザロを遣わしてください。私には兄弟が五人いますので、こんな苦しい場所に来ることのないように、彼らによく言い聞かせてください」と頼むのですが、それも叶わないわけです。すべてが遅すぎた。もしアンタがもっと早く、隣人の命をも慈しむこと、他者に情けをかけることに気付けていれば、自分の愛する家族の命をも守れたかもしれないのに。「情けは人のためならず」という言葉があるけれども、まさにこのことではないか。

アブラハムは「お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。もし、モーセと預言者に耳を傾けないならば、たとえ誰かが死者の中から復活しても、その言うことを聞き入れはしないだろう」と言います。さて、突然ですが、

私たちはモーセの言葉を聴いているのでしょうか。レビ記 19 章 18 節には「復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」とありますし、イエス・キリストも最も重要な掟として「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい』。第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい』この二つにまさる掟はほかにない」(マタイによる福音書 22:37-39)とされています。私たちがその言葉を本当に自分に迫るもの、自分事として聴いていないとき、私たちは本当に世界に平和を作り出していく者とは、きつとなれない。どんなに大事な仕事、偉大な働きをしていたとしても、それでは本当に世界に平和を作り出す者とはなれないんです。昔の流行り言葉で「友だちの友だちは皆友だちだ。世界に広げよう、友だちの輪」というのがありましたが、みんなつながっているんです。私たちが隣にいるラザロを愛することは、遠くの空の下に家族を愛することでもあり、私たちが遠くの空の下にいる愛する人の命や思いを大事にしたければ、まず隣にいるラザロの命や気持ちを大切にしていけないんです。

この金持ちとラザロの間には、超えるにはもう手遅れなほどの大きな淵、いわゆる裂け目、溝が出来上がっていました。その溝を越えられなくなる前に、手遅れになる前に、キリストのみ言葉に従って、命の絆でつながっていきたいものだと思います。この話ではラザロという名前(「神は助ける」という意味)の登場人物に対して、金持ちは具体的な名前がなく、「ある金持ち」としか書かれていません。それはつまり、この金持ちとは、どこにでもいるような私たちのことでもあるのではないかと。私たちが現実に金持ちかどうかは関係ない。私たちが隣にいる誰かに対して関心を持ち、情けをかけているか、助けを必要としている誰かのことを無視していないか、そこが問われているという意味で私たちはこの話における金持ちと同じなのです。私たちは天国の宴席で、アブラハム、ヤコブ、イエスや、自分の愛するみんなと一緒に顔を合わせて喜ぶことができるように、手遅れにならないうちに今、ともに助け合い、支え合って、思いやり合って生きていきたいと思います。